

共生

奈良県生協連

2013年7月

NO.89

万葉のいぶきを求めて—(54)



なら山の山々

君に恋ひ ^{いた} ^{すべ} 甚も術なみ ^{ならやま} 平山の 小松が下に 立ち嘆くかも
かさの いら つめ
笠 女 郎

「あなたに恋こがれて、どうしようもなく、奈良山の小松の下に私は立って、あてどないため息をつくばかりです」笠女郎がひと目惚れした大伴家持に贈った歌は万葉集に29首収録されていますが、家持から女郎への歌は2首のみです。女郎からの一方通行でした。

奈良山は、平城宮跡の北に連なる佐保、佐紀の山々の総称で、奈良山という特定の山があるわけではありませんが、長い歴史の中で語り継がれた哀愁の息づく所です。仁徳天皇の皇后・磐之媛、夫を殺され、髪をふり乱して素足で走り、ここ奈良山に葬ったという影媛、壬申の乱等の政争、悲恋、鎮魂の場として語り継がれてきました。

新しくは、少し年配の方ならよくご存知の「ひと恋ふは、かなしきものと平城山に、もとほり来つつ堪えがたかりき」という北見志保子作詞、平井康三郎作曲の「平城山」は、まさに現在の万葉歌とも言える歌で多くの人に歌い継がれています。

第24期 奈良県生協連通常総会

6月22日 猿沢荘

6月22日奈良市内の猿沢荘において奈良県生協連の第24期通常総会を開催しました。代議員と関係者合わせて90名が参加し、全ての議案を可決承認し2013年度の新たなスタートを確認しました。



瀧川会長



議長の紙森さん



奈良県消費・生活安全課
姫野課長



近畿ろうきん
法橋部長

- 開会挨拶の中で瀧川会長は、現政権による景気対策や経済戦略が進む中で消費者のくらしは依然不安が山積していることに触れ、昨年の国際協同組合年の取り組みを土台に心を合わせて県内で協同の心を広げ発展を目指していくことを呼びかけました。
- ご来賓を代表して奈良県消費・生活安全課姫野課長からご挨拶をいただきました。「東日本や紀伊半島大水害の災害復興支援活動の継続的取り組みに敬意を表します。設立準備に中心的役割を果たしたなら消費者ねっとのこれからの活動にも期待します」と生協への応援の言葉を述べられました。
- また昨年度の福島の子ども保養プロジェクトや5月の協同シンポジウムで連携の取り組みをさせていただいた近畿労働金庫地域共生推進部の法橋部長もご挨拶の中で「今の社会は劣化しかけています。こんな時こそ非営利協同セクターの一員として地域社会の中にたすけあいの仕組みをつくり、福祉の心が根付くようお互いの連携を」と呼びかけられました。

■2013年度の重点課題を確認しました

- 【1】協同組合の理念を共有し地域社会に協同とたすけあいの実践を広げます
- 【2】くらしと社会のさまざまな問題を学びあい考えあえる場をつくります
- 【3】ネットワークの力によって地域消費者の学ぶ力を高めます
- 【4】よりよい奈良の明日のために県南部地域活性化の活動に参加します
- 【5】会員の活動支援と連帯を強めます

～ありがとうございました～

■ご臨席の来賓のみなさま

奈良県消費・生活安全課課長	姫野 隆昭様
主事	井阪 素也様
奈良県消費生活センター所長	松並 裕様
近畿労働金庫地域共生推進部長	法橋 聡様
なら消費者ねっと代表	北條 正崇様
奈良県地域婦人団体連絡協議会会長	中島 祐子様
日本生協連関西地連事務局	小林紀久子様

※順不同

■寄せられたメッセージ・祝電 61通
県内協同組合及び関係諸団体
全国の生協、生協連

もくじ

奈良県生協連通常総会…………… 1～4
協同シンポジウム…………… 5～6
吉野共生プロジェクト…………… 7

T P P 交渉への参加に反対します…………… 8
おじゃましました・コープ自然派奈良 …… 9
広がる協同・くらしの輪…………… 10

■ 2013 年度新体制

役 職	氏 名	所 属
会長	瀧川 潔	員外(市民生活協同組合ならコープ)
副会長	辻井 宏育	奈良県労働者共済生活協同組合
専務理事	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ
理事	栗村 俊夫	奈良県立大学生生活協同組合
理事	石間 奈穂子	奈良工業高等専門学校生活協同組合
理事	加藤 由美	奈良女子大学生生活協同組合
理事	小林 和美	大阪樟蔭女子大学生生活協同組合
理事	崎濱 誠	奈良教育大学生生活協同組合
理事	立石 昭彦	生活クラブ生活協同組合
理事	仲宗根 迪子	奈良県医療福祉生活協同組合
理事	中野 素子	市民生活協同組合ならコープ
理事	前田 陽一	生活協同組合コープ自然派奈良
理事	森 宏之	市民生活協同組合ならコープ
監事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
監事	田村 俊文	市民生活協同組合ならコープ

おつかれさまでした!
&
よろしくお願いします!



今期で退任された理事
長門裕明さん
(大阪樟蔭女子大生協)



新任理事
小林和美さん
(大阪樟蔭女子大生協)

親睦でつながる協同の“輪” ～感謝のつどい～



奈良県消費生活センター
松並所長



学生委員の参加でにぎわう会場

総会終了後の「感謝のつどい」では、ご来賓の方々と会員同士の交流のひとつとなりました。今年も大学生協から学生委員が多数参加し、例年のように若々しい雰囲気でのびやかな懇親会となりました。会場の各所ではお互いの活動の自己紹介が交わされ、世代や分野を超えた交流が進みました。

奈良県消費生活センター松並所長はご挨拶の中で最近の消費者被害の実例についてご紹介され、安心な消費生活に役立つ生協活動に期待の言葉をいただきました。

また会員生協ごとの紹介スピーチにもそれぞれ大きな拍手がおくられました。「参加して初めて色々な生協があることが分かった。もっと仲間に伝えたい」という大学生協の学生さんの言葉が印象的でした。



会員紹介のコーナーは楽しいスピーチで盛り上がりしました

*** 会員生協からの活動報告 ***

奈良県労働者共済生協

元木 幹雄さん

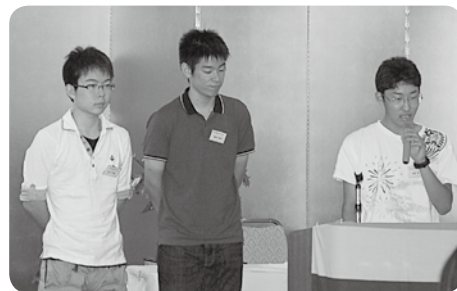
異常気象により全国的に災害が多く発生し被災された組合員の生活再建に向けた迅速な共済金の支払いに努めました。一方では東日本大震災への2年間にわたる被災者対応もこの3月で調査活動の収束をしましたが、引き続き被災者の生活再建にできることを続けていきたいと思っています。過去の経験を活かし「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を展開しました。「国際協同組合同年」の年に主要な協同組合と一緒に協同組合の社会的役割、意義をアピールするとともに、他の生協間での連帯で独自の取り組みを展開しました。



奈良工業高等専門学校生協

大西 悟さん

組合員の健康・安全を守る取り組みとして春と秋に自転車点検を実施。業者の方により学生の自転車を無料点検、交通安全の冊子を渡し交通マナー向上を目指しています。10月の食生活相談会では、自分の健康や食生活を栄養士さんに相談できる企画で、多くが自宅生ですが、朝食の欠食や運動不足、太りすぎか痩せすぎの両極化など多くの問題を抱えていることが分かりました。また、アルコール耐性テストやゴーグルを使った疑似体験などを通じアルコールの危険性を学んだり、「お肌チェック」「体組成チェック」で健康に関心を持つ機会を持ちました。組合員還元として7月「かき氷企画」、2月「ケーキ喫茶」を実施し大好評でした。新一年生や保護者の皆さんに安心していただくために、冊子を作成し、教科書販売を学生委員が担当しました。SNSを使った広報活動にも力を入れたいです。



左から田代さん、島田さん、大西さん

大阪樟蔭女子大学生協

門 正博さん

関屋キャンパスと小阪キャンパスが統合されることになり、一昨年小阪に生協が発足。小阪では学生委員はまだ活動していませんが、今年度以降どのように統合していくのか計画を立てていくことになります。両キャンパスとも食堂を抱え、マイナスが大きいです。マイナスを出さないようにしていかなければなりません。関屋キャンパスが無くなるまでの2年間、最後まで不便のないように統合を進めていきます。小阪には「健康栄養学科」があり生協と協働で活動をすすめていきたい。夏祭り、クリスマス、新入生歓迎などの行事を展開していきながら、小阪に活動を集約していきます。



奈良県立大学生協

村越 美月さん

専務はいませんが員外理事の松浦さんやパート職員さん、教員理事と協力して運営しています。「学生棚」という学生目線で店舗にどのような商品を置くかを検討することにより、店舗を身近に感じてもらう機会になり、パートさんとの打ち合わせで距離も縮まりました。井コンテストでは委員や組合員から声を拾い総会で試食。また新入生の不安を解消する企画を実施し、保護者に向けて基礎ゼミ単位での集合写真や一言を掲載した冊子を送りました。また大学生活のあらゆる情報を機関紙「風」に掲載し情報発信に努めました。小規模の奈良県立大だからできること・しかできない活動を行うことができました。



奈良教育大生協

小畑 友里恵さん

生協夏祭りには地域の方含め200人来てくださいました。6月11日に食生活相談会を実施し、栄養士さんとの相談会もあり自分自身を見直すきっかけづくりを提供しています。8月のオープンキャンパスでは受験生だけでなく保護者の不安を取り除くような企画を実施しました。情報発信を強化し受験生向けメールマガジンやTwitterも始めました。新入生歓迎企画ではお料理交流会、さくらハイク、何でも相談会を実施。組合員への還元企画と同時に「生協とは何なのか、何ができるのか」を楽しく理解できる場を設けました。

総代会目前に『ピタゴラスイッチ』様式でビー玉を用いて出資金の流れを説明しました。



奈良女子大学生協**藤澤 千里さん**

学生や教職員、生協で働く職員の声を聞き、七夕祭り、クリスマスパーティのそれぞれのニーズを企画に反映しました。カフェと学生委員のコラボレーションで「バンビのおさんぽパフェ」が誕生。受験生サポートや新学期企画を通じて、受験生一人一人に対して丁寧に受験サポートを行い、新入生には学生生活に対するビジョンを描いてもらいました。「共済元年」とし共済への加入を積極的に促進し給付ボードを作成するなど共済加入率増加に貢献しました。「Beauty Health Lab.」と称し女医さんマップやカロリー表展示など女子大ならではの食生活相談会を実施。活動を通じて「奈良女をもっと好きになる！」ように進めていきます。

**コープ自然派奈良****船内 智子さん**

「私たちはいのち、自然、くらしを大切に笑顔いっぱいの安心して暮らせる社会をつくり、未来への橋渡しとなるような生協をめざします」組合員と役職員で、みらい・つながる・ふーどの3つのビジョンと、中心にハートを配置したビジョン図を組合員が共有し、活動しています。10周年記念総会では来賓をお迎えし賑やかに祝いました。毎月のビジョン推進会議では生協活動をどう盛り上げていくかアイデアを出し合い交流を深めています。商品委員会、田んぼの生き物調査、生産者交流学習会、有機農業を拓げる、食育活動、伝統食を守る、食農体験、脱原発、被災地支援、子育て支援などに取り組んでいます。8チームと2地区の魅力あるイベントを企画し交流を深めています。医療福祉協、学校給食を考える会など地域と連携した活動も広がっています。

**生活クラブ生協****甲斐 京子さん**

北海道から兵庫まで33単協が集まる生活クラブ生協では初めて全体で35万人消費材アクション『みんなでいただきます』をテーマに30品目の消費材を5%価格を下げ107%の利用結集を行いました。奈良では6地区より試食モニターを募集し交流会を行うなど107%の利用結集を達成。また、豚肉生産者が変わったこともあり「家族に食べさせたい豚肉」を作りたいという生産者の思いが伝わる学習会を開催しました。食品残さの飼料化で循環型社会を考えた養豚に取り組んでいます。農園サークルの自主活動が20家族となり斑鳩町遊休地での作業が始まりました。子どもたちの生きる力を育てる活動をしていきます。

**ならコープ****森田 通子さん・佐竹 陽子さん**

地産地消の取組として「食べる“なら”大和」と称し耕作放棄地に金ゴマを栽培し商品を開発。地域ごとの組合員の声を活かした「エリア開発商品」食育活動の「たべる、たいせつフェア」を開催。子育て応援のための「知って得するならコープ」リーフレットを作成し、はじめての子育て支援としてプレママ企画を開催しました。また東日本大震災の支援活動として「福島子ども保養プロジェクト in かんさい」「福島土壌スクリーニングプロジェクトへの職員ボランティア派遣」「岩手ボランティアバス企画への参加」「東北お手伝いのつどい」「チャリティ企画」などをしました。「たすけあい、ささえあい、わかちあい」の精神で歩んでいきたいと思っています。

**奈良県医療福祉生協****松田 夕紀子さん**

昨年3月31日に設立総会を開催し8月1日に「みみなし診療所」をオープンすることができました。診療所には最新の胃カメラや大腸ファイバーなどの検査機器を導入しています。金先生は消化器内科の専門医で内視鏡検査は好評で、「ヘリコバクターピロリ感染症認定医」と認定されました。10月からは小児科も開始し、予防接種や乳幼児健診も実施しています。巡回診療も行っています。健康に役立つ学習会や「健康のつどい」を開催。まだ独り立ちできないので支援を受けながらも、将来は医療過疎地域に役立てる生協に育てていきましょう。引き続きみなさまの支援をよろしくお願いいたします。



協同シンポジウムを開催しました

2020年への挑戦 ～奈良から。協同セクターの連携が未来を紡ぐ～

主催：近畿労働金庫奈良地区統括本部 奈良県生協連

協力：ならコープ、奈良県医療福祉生協、奈良NPOセンター、奈良県労働者福祉協議会、全労済奈良県本部

国際協同組合年で確認された協同組合の役割とICAが提起する「2020年への挑戦」を踏まえ、奈良県での協同組合間連携を探ることを目的に、5月18日(土) 13:00 - 16:30 奈良ロイヤルホテルで開催され、250人がこのシンポジウムを機にお互いに手をつなぐことで大きな市民の力を生み出していくことを確認しました。

シンポジウムには、奈良県産業雇用振興部雇用労政課課長 村上次郎氏、くらし創造部消費・生活安全課課長姫野隆昭氏、同主幹青山明彦氏、奈良市市民活動部協働推進課課長堀内伸泰氏、日本生協連関西地連辻祥行事務局長にご臨席いただきました。

主催者の近畿労働金庫 北井悟司奈良地区統括本部長、奈良県生協連 瀧川潔会長から開会の挨拶があり、その後、賀川記念館 館長 賀川督明氏による基調講演とパネルトークが行われました。



北井悟司近畿労働金庫
奈良地区統括本部長



瀧川潔奈良県生協連会長

基調講演概要

「痛みのシェア 未来をつむぐ 協同組合のこれからを探る」

講師：賀川記念館 館長 賀川督明氏

★**国連国際年とは**：テーマの背景には貧困、飢餓、疾病防止と保健、教育、ジェンダー平等、環境の持続可能性など国連ミレニアム開発8つの目標があり、これらの課題解決を考えるのが国際年です。今年は自然と調和した食料供給がテーマの「国際キヌア年」と、安全な水を利用できない人を半減させる「国際水協力年」です。

★**世界に思いを馳せることが大切**：日本人は一人一日 300 Lの水をほとんど洗うために使っているのに、アフリカの多くの人たちは「いのちのための水」にアクセスできないでいる。食料生産には多量の水を使用するので食料輸入はすなわち命の水の搾取に他なりません。こうした構造的なゆがみをなくし持続可能な開発のための教育(ESD)をすすめる必要があります。そして協同組合運動こそESDといえるのです。

★**くらしをデザインし連携を**：総合性のある運動はすぐに価値を実感できないので評価されにくい。スペシャリストだけが注目される傾向があります。理性と感性のバランスを保ちつつ空間軸・社会関係軸・時間軸で総合的に領域を広げていきましょう。奈良県でも在来作物の種の保存や地域の市民シンクタンクの設立、200年使える住宅づくりの協同組合の創設や、奈良を「永続地帯」にするエネルギー協同組合の創設などにもチャレンジしてはいかがでしょう。

★**痛みをシェアする**：「私たちの安全安心」から「彼らの安全安心」へ視点を広げることが大切です。遠くアフリカや東日本に思いを馳せながら、見えない貧困と他者の痛みに寄り添い、ともに生きる共生の社会をめざしていきましょう。



講師の賀川さん

パネルトーク

「協同セクターが支える“ひと・まち・暮らし”を探る」

①ならコープ副理事長 中野素子さん「未来のために たすけあい・ささえあい・わかちあい」

みんなの願い、よりよい暮らしを実現する組合員の参加や、「奈良の元気は吉野から」を合言葉に取り組む吉野共生プロジェクトなどについて報告されました。

②奈良県医療福祉生協理事長 仲宗根迪子さん「IYCで誕生した奈良県医療福祉生協です」

奈良県で初めての「いのちの分野の生協」づくりについて報告、県内諸団体の協力・連携のもとに設立運動がすすめられたことや、地域の健康づくりのためのこれからの課題について話されました。

③奈良NPOセンター理事 反田博俊さん「奈良NPOセンターについて」

阪神淡路大震災を機に発展してきたNPOの活動は、行政や企業だけでは解決できない諸問題に取り組む市民のパワーであるとして、それを支援する中間団体である奈良NPOセンターの概要を報告されました。

④近畿ろうきん地域共生推進部部長 法橋聡さん「非営利協同セクターの連携が未来を創る」

労金の仕組みと理念を紹介、劣化する社会に対して共生社会をめざす担い手は非営利・協同セクターであり、その一員としてみんなの連携で世の中にあたたかいお金をまわしたいと提起されました。

○賀川さんとのディスカッション

それぞれの報告者と新たな連携の在り方などについて語り合い、このシンポジウムを機にお互いに手をつなぐことで大きな市民の力を生み出していくことを確認しました。



左から法橋さん、反田さん、仲宗根さん、中野さん



左からコーディネーター辻専務とコメンテーター賀川さん



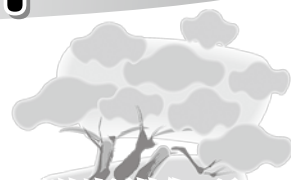
閉会挨拶をする奈良県労福協事務局長 脇田登氏

参加者アンケートから

- 奈良県はこれから高齢化をはじめ様々な問題があり、衰退していくほうに流れると考えていたが、生協、NPO、近畿ろうきん等が力を合わせて何か行動していけば、衰退するどころかより活発な地域に変わっていくと感じました。
- 各協同組合のプロフィール、しくみや取り組みを詳しく聞くことが出来、とても参考になりました。組合間での連携によって、さらに奈良県の活性化につながることも知り勉強になりました。
- 人と人がつながる「協力」の大切さを改めて感じました。プラスのシェア、マイナスのシェアの考え方は新鮮であり、協同組合の存在価値の重要性和地域に果たす役割を生協職員として実践していきます。
- 協同組合シンポジウムではなく、協同シンポジウムである、ということでの基調講演、4名のパネラーのおはなし、とてもよかったです。今日がキックオフになることを願い、キックオフになるように活動していきたいです。

吉野共生プロジェクト

共に生き、共に暮らし、
歴史と文化を育み伝える



奈良県生協連では、2013年度の重点課題の一つに「よりよい奈良の明日のために県南部地域活性化の活動に参加します」を掲げました。昨年の生協大会で深めたテーマ「復興、地域活性化と生協の役割」を土台に、県南部地域活性化に貢献できる活動に取り組み、ならコープやJAならけん、奈良県森林組合連合会がすすめる「吉野共生プロジェクト」の取り組みを支援しています。

吉野の自然と文化を守り、地域産業を振興

吉野の森林を源とする吉野川の流れは、山林の整備と保全により育まれ、古くいにしえから都の作物を育て、その清流が都にくらすひとびとの暮らしを潤し続けてきました。

豊かな吉野の山々が育んできた吉野川の流れは、林業従事者の高齢化、山村の過疎化に伴い整備されない山林が増えています。そこで、私たちは地域の行政、NPOなどと連携、交流をすすめ豊かな吉野の森林保全と地域にずっと暮らし続けられるための産業振興支援を始めました。



奈良の財産を後世につなぐために

私たちは、行政や各団体と協力して、奈良県の財産である自然と文化を守り、よりよい地域社会の実現に向けて取り組みます。

環境保全・森林再生に取り組みます。

NPO や地元行政、賛同企業、ならコープ組合員・職員が連携して保全活動、植樹活動に取り組みます。

奈良県の地場産業の振興に寄与します。

奈良県産ひのひかりや奈良の伝統野菜、吉野地域の特産品、吉野材の普及に取り組みます。

地域のコミュニティ再生に寄与します。

行政、NPO などと連携、交流をすすめ横のつながりを深め地域コミュニティの活性化に取り組みます。



TPP交渉への日本政府の参加反対のメッセージを発信しました

奈良県生協連は、一昨年来、TPP交渉参加については国論を二分している問題であり、交渉に参加するという拙速な政府の動きに対して、奈良県農業協同組合、奈良県森林組合連合会とともに反対を表明し運動を進めてきました。

2011年10月には、「TPP交渉への拙速な日本政府の参加に反対」する会長のメッセージが出されました。しかし、安倍首相は、こうした国民の声に耳を傾けずTPP交渉への参加を表明し、交渉が進められています。奈良県生協連では、こうした動きに対し再度メッセージを出してアピールしました。

TPP交渉への日本政府の参加に再度、反対を表明します

安倍首相はこの3月15日、TPP（環太平洋連携協定）への交渉に積極的に参加することを正式に発表しました。奈良県生協連は、一昨年来、TPP交渉参加については国論を二分している問題であり、交渉に参加するという拙速な政府の動きに対して、奈良県農業協同組合、奈良県森林組合連合会とともに反対を表明し運動を進めてきました。

TPPの交渉内容は、工業、農業、サービス業、投資や環境、労働にいたるまで全経済分野に渡り、日本国民のくらしの広範囲におよんで資本の自由化が一気に進む内容になっており、くらしを守るための私たちの活動にとって重大な問題であることがますます鮮明になってきております。安倍首相は「守るべきものは守る」と主張していますが、参加各国の意向は「全ての関税撤廃」であり、アメリカでも国内向けにはその方向での説明がなされております。また内容が秘密裏に進められ、アメリカ国内でも問題になっています。

中でも生協にとって特に重要なものは、食糧・農業の問題、食品の安全の問題、医療・福祉の問題等であるでしょう。世界の状況がまだまだ不均等の発展途上にある中で、生協は人の命を育む食料の問題で外国依存は避けるべきであること、特に食の生産に関しては各国の歴史的な現状に配慮して対応すべきであると考えてきており、高率な関税を撤廃することは国内農業を破滅に追い込むことになります。また、経済圏で70%を占めるアメリカの経済力のなかでの自由化は、多くの部分で米巨大資本による圏内経済の制圧が進められることが懸念されます。食品添加物や農薬使用など日本での重要な規制が、「自由な競争を阻む」という理由でアメリカの基準に合わせられることや、医療・福祉等や学術研究の分野での国民のくらしを重視した国民皆保険制度など様々な政策も、同様の理由で大資本に有利な「規制撤廃」が進むことが懸念されます。「自由」という言葉は美しいですが、力の差が歴然とした土俵での自由は、弱者にとっては「抑圧」でしかありません。

日本政府も、「競争力のある」一部の大資本の期待を優先し、農業やくらしの分野での大資本制圧の問題をないがしろにするようなことがあってはなりません。

奈良県生協連は県内世帯の40%以上を占める生協組合員のくらしを守るために、会員生協と連携して運動と事業を進めてきており、特に食と共済、医療・福祉の分野での活動を重視してまいりました。県民のくらしと食の安心・安全、地域での協同を大切にする立場から、政府のTPP交渉への参加に再度、強く反対を表明します。

2013年4月15日

奈良県生活協同組合連合会

会 長 瀧 川 潔

おじゃましました ～コープ自然派奈良の巻～

＊みんなの力で元気をもらえます＊



ここが田植えをする場所。60aの広さ。

田植えは今年で6年目。当初は伊賀で「田んぼの生き物調査」をしていましたが、奈良県農業協同組合と奈良県森林組合連合会と奈良県生協連などによって毎年開催している「奈良県協同組合デー」で知り合った営農組合長の松井さんのご尽力で、奈良での田植えが実現したそうです。「田んぼの生き物調査」をすることから、減農薬で栽培することにより次第に生き物が増えていくことに気づき、まわりの生産者の皆さんも関心をもたれるようになったそうです。今では田植え・生き物調査・稲刈り(田んぼの運動会)も恒例行事になっています。



田植えの仕方を説明する松井さん、西村さん、森田さん(左から)



田植えの後の
おにぎり
と
トン汁は
おいしいね。



「気持ちを伝えてほしい。安心して安全なお米をみなさんに食べてほしい。今度の生き物調査にも刈り取りにも来てください」と西村さんが挨拶。

3月31日に米ぬかを入れ3回攪拌して豊かな土になりました。田植えから120日でお米ができます。安心なお米を食べてほしくて有機肥料を使い、株の間隔をあけて風通しを良くしてなるべく農薬も使わないようにしています。「外からの評価が私たちにとって励みになります」と田植えを見に来られた女性たちも話しておられました。「おいしいよ」というみんなの声って大切ですね。

広がる協同・くらしの輪

◆奈良県医療福祉生協 第1回通常総代会

●地域の健康づくりをともにめざして●

2012年3月に発足した奈良県医療福祉生協が6月15日、第1回目の通常総代会を迎え、会場のコープみみなし集会室に総代、関係者合わせて81人が集いました。開会挨拶の中で仲宗根迪子理事長は「奈良で初めてのいのちの分野の生協は多くの人の力によって支えられ着実に歩みだしました。医療の世界での活動はすべてが新鮮な体験であり課題も多いですがチャレンジしていきたいと思います。これからも協同組合の力を発揮して市民でつくる健康作りの運動をすすめていきます」と2年目の意気込みを語りました。



議案提案の後合わせて9人の総代からの発言があり活発な討論となりました。「もっと医療生協を知ってもらえるように地域の人によびかけていきたい」「元気で診療所にいけることをめざして遠い地域からも応援に参加できる取組をしたい」「活動ではいろんな苦労もあるがみんなで話し合っ解決できるのは生協だから」など、活動参加について力強い発言があったほか、「誕生月健診の実施」のアイデアや小児科開診日の拡大の要望等も出されました。

第1号議案から7号議案まですべての議案が賛成多数で可決承認され第1回目の通常総代会は無事終了。総代、役職員の皆さんは2年目となる事業のスタートに決意を新たにされました。

◆アースデー 2013 in なら

2013年4月21日（日）国営飛鳥歴史公園 石舞台にて、ならコープ主催、奈良県生協連共催の「アースデー 2013 in なら」が開催され、約800人が参加しました。行政（五條市、吉野町、川上村、上北山村、黒滝村、東吉野町、天川村、野迫川村、十津川村）、菜の花プロジェクトの展示や、ならコープエリア会、ならコープ取引先、奈良県森林組合連合会、環境保全活動助成団体、奈良県生協連（奈良県医療福祉生協が出展）が出展し、地元の物産品や食べ物の販売がありました。朝からの雨は止んだものの冬並みの寒さが戻り、来場者は予想よりも少なかった一方で、明日香村森川裕一村長も来られ、地元の方による舞や太鼓などが披露され、遊休地の除草に活用されている山羊や、木工細工、ゲーム、奈良県医療福祉生協の体脂肪・血圧測定などもあり、出店者同士の交流が深まりました。

また、県庁前では、コープ自然派奈良による「出会いフェスタ」が開催され、多くの参加者で賑わっていました。



◆第1回生協行政協議会

5月16日 2013年度第1回生協行政協議会が開催されました。奈良県から消費・生活安全課の姫野課長、青山主幹、勝本係長、井阪主事にご参加いただき、「奈良県の新年度体制と今年度事業の特徴について」「今年度の奈良県生協連の活動方針について」についてそれぞれ報告し意見交換を行いました。



県連日誌

4月

- 1日 なら消費者ねっと運営委員会
- 4日 関西地連運営委員会
- 4日 日本生協連総会議案検討会議
- 21日 アースデー 2013 in なら
- 23日 吉野共生PJ推進委員会準備会
- 25日 「関西電力の電気料金値上げを検証する」学習会
- 26日 南部地域産業復興推進大会開催協議会

5月

- 9日 県連2012年度監事監査
- 10日 なら消費者ねっと運営委員会
- 16日 2013年度第1回生協行政協議会
- 16日 第7回奈良県生協連理事会
- 18日 協同シンポジウム
- 19日 つながり祭
- 20日 吉野共生PJ推進委員会準備会
- 22日 奈良県環境審議会
- 22日 ピースアクションをすすめる会
- 23日 奈良高専生協総会
- 23日 奈良県立大学生協総会
- 23日 奈良教育大学生協総代会
- 24日 奈良女子大学生協総代会
- 25日 民主党参議院議員前川清成議員訪問
- 30日 消費税学習会
- 31日 南部地域産業復興推進大会開催協議会
- 31日 大阪樟蔭女子大学生協総会

6月

- 4日 近畿財務局財政モニター会議
- 7日 なら消費者ねっと運営委員会
- 10日 生活クラブ生協総代会
- 12日 ならコープ総代会
- 14日 日本生協連第63回通常総会
- 15日 奈良県医療福祉生協総代会
- 21日 コープ自然派奈良総代会
- 22日 奈良県生協連第24期通常総会
- 22日 奈良県生協連第1回理事会



お知らせ

奈良県生協連2012年度第7回理事会

主な審議事項

- (1) 2012年度決算関係書類承認及び借入金最高限度額に関する件
- (2) 第24期県連総会議案確定及び第24期県連総会の準備等に関する件(第3次)
- (3) 2013年度次期体制への申し送り事項に関する件
- (4) 奈良県医療福祉生協の支援に関する件
- (5) その他事項の件 ①福島子ども保養プロジェクトの取り組み ②吉野共生プロジェクト推進委員会への参加について ③社会福祉法人こぶしの会「やなせたかしの世界展」後援名義使用の件

奈良県生協連2013年度第1回理事会

主な審議事項

- (1) 理事会の構成に関する件
- (2) 代表理事選任の件

編集後記

15歳の若者からおそらく70代後半の大人まで、こんなに歳の差のあいた人たちの会話がはずむ総会懇親会の光景・・・地域のつながり強かった昔はきっとこんなのは当たり前だったはずなのに、今ではめずらしいことのように感じてしまう。今年度も生協活動を通して「よりよい暮らし」とたくさん人の「よき出会い」が生まれますように！

(由)

昨年11月に家の花壇に種を植えたそら豆を春に収穫しました。アブラムシがつきやすい新芽はあらかじめ取り、夜に虫を取り、農薬を使わず収穫できました。はじめは空を向くから「ソラマメ」ということに納得。新鮮な豆をおいしくいただきました。今度はラッカセイに挑戦中です。花が咲いた後、どうやって地面に潜るのか楽しみです。

(順)

先日、生まれ育った田舎に久しぶりに行ってみた。「限界集落」をとくに越え、かつての棚田が続く農山村の風景は大きく変わっていた。車がないと買い物にも行けない。住み慣れた高齢者にとっては「買い物難民」とならざるを得ない。時代の流れといえはそれまでだが・・・「吉野共生プロジェクト」が他人事とは思えず、地域にお役立ちできることを願う。

(和)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535

FAX 0742-34-0043

URL <http://www.narakenren.coop/>